

令和 8 年度

「運営に関する計画」

大阪市立古市小学校

令和 8 年 4 月

大阪市立古市小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和 7 年度「運営に関する計画」における最終評価から、本校の現状と課題は以下のとおりである。

全教職員が平素より子どもに寄り添い、保護者との連携を丁寧に行っている。「学校は楽しい」の項目に最も肯定的に答える児童の割合が全学年で 57%であった。特に高学年において最も肯定的に答える児童の割合は 46%となっており、本校の課題となっている。

学力・体力面においては、小学校経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合は国語 17→15%、算数 13→6%、どちらも 7 割未満の児童は 6→3%となり、前年度から減少させることができた。また、運動やスポーツをすることが好きな児童の割合は 66%、肯定的も加えると 88%となり、運動やスポーツを楽しむ児童が増えた。学年間の系統を意識した学力体力向上の取り組みは重要である。

学習者用端末の活用に関しては、「日々の学級活動の中で毎日、学習者用端末を活用して学習している」の項目に肯定的に答える児童の割合は、全学年合計で 71→76%となり、昨年度よりも活用実感をもつことができた。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 11 年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。
- 令和 11 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分には、よいところがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を、88%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 11 年度の小学校学力経年調査の平均正答率 7 割以下の児童を、いずれの学年も令和 7 年度より、1 ポイント減少させる。
- 令和 11 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 11 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。
- 令和 11 年度の教員 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を、令和 7 年度より 1 時間削減する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和8年度小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和8年度小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和8年度小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 令和8年度小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント減少させる。
- 令和8年度小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和8年度小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。
- 令和8年度の教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下とする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立古市小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 ○令和8年度小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ○令和 8 年度小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ・校内調査や児童の観察等によって、いじめが認知された場合、学年・管理職・いじめ対策委員会との情報共有を行い、指導の方針や進め方等を確認し、迅速に対応する。 ・指導の経過を記録に残し、解消されたと判断されるまで指導を続ける。 ・いじめにつながる児童同士の関係や事象がないかを日常的に把握するため、「いじめアンケート」などの取り組みを行う。 ・児童が主体的に課題を見出し、計画・実践・振り返りを行う活動を取り入れることで、集団の中での自己の役割を自覚し、その役割を果たそうとする態度を育成するとともに自己有用感の向上を図る。	
指標 ・「いじめアンケート」を実施し、いじめの解消率を 90%にする。 ・スクリーニング会議を毎月行い、いじめ指導の進捗状況や児童の様子について情報を 共有し、未然防止・早期対応を徹底する。 ・児童らが主体的に計画を立て、取り組める活動を学期に 1 回取り組み、達成できたことについて振り返る。	
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 ・児童の自己肯定感の向上を図るため、道徳の学習「A 主として自分自身に関すること」の内容項目について、各学年で児童の実態を共有しながら指導方法を工夫し、指導の充実を図る。また学級・学年の実態に応じて、児童の努力や成長を可視化する工夫を行うことによって、達成感や自己肯定感を高めて、豊かな心の育成を図る。 ・学級目標や個人のめあてに照らし合わせた日常的な振り返り活動を通して、自分の成長やよさに気づく機会を充実させるとともに、みんな遊びにおけるみんなが楽しめるルール作りや学級会活動における話し合い活動の充実を図り、互いの考えを認め合う態度を育成する。 ・児童同士が互いのよさを認め合える活動（「ほめ言葉のシャワー」「今日のキラキラさん」「今日のがんばったこと」「今日のありがとう」など）を通して、自己肯定感と他尊感情を高める。 これらの取組を通して、児童一人ひとりが自分のよさに気づき、他者と認め合い	

ながら主体的に学校生活を送る態度の育成を図る。	
指標	・ 道徳科「主として自分自身に関すること」の指導について、各学年で指導方法を共有し、学期に 1 回以上の授業改善を実施するとともに、児童の努力や成長をワークシートや掲示等で可視化する取組を各学級で行う。 ・ 各学級において週 1 回以上の振り返り活動を実施する。振り返り記録において、自分の成長やよさに関する記述が見られる児童の割合を学期ごとに向上させる。 ・ 各学級において月 1 回以上の話し合い活動を実施する。 ・ 令和 8 年度末の校内調査では、「自分には、よいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82%以上にする。
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立古市小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○令和 8 年度小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。 ○令和 8 年度小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント減少させる。 ○令和 8 年度小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・近くの友だちと話し合う「ぼそぼそタイム」や学級全体で話し合う「深めよう広げようタイム」を取り入れた授業を行い、話し合い活動の充実を図る。 ・総合的読解力育成の時間や各教科の学習の中で、児童が話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広めたりすることができるような授業づくりを教員が意識して行う。 ・ドリルやプリント、タブレット学習など、児童の実態に応じた教材を活用する。また、教員が児童の学習進度を把握し、個に応じた支援をしていく。 ・誰一人取り残さない学力の向上を達成するために、個人懇談期間中に担任外が中心となって学習タイムを設定し、学習の取りこぼしを減らすようにする。 ・担任と専科教員が連携し、きめ細かな指導を行う。 ・教員の授業力向上を目指して、積極的に研究授業・公開授業を参観したり、研修会に参加したりする。	
指標 ・学年の実態に応じて、学習の中で調べたことをまとめたり友だちと話し合ったりして、学期に 1 回調べたことを発表する機会を設ける。 ・令和 8 年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の正答率が市の平均の 7 割に満たない児童を学校全体の 4%未満にする。 ・年に 2 回、個人懇談期間中に学習タイムを実施する。 ・校内や校外での研究授業・公開授業、研修会に 10 回以上参加する。	
取組内容②【基本的な方向 5、健やかな体の育成】 ・体育科の専門的知識を備えた教員を招き、実技研修を受けたり、チームティーチングで体育の授業を行ったりすることで、教員の指導力向上を図る。 ・教員の実技研修を行ったり、運動カードを活用したりして体育の授業を実施し、運動が苦手な児童にも運動が好きになる授業づくりに努める。	

- ・異学年で体を動かす行事を行ったり、教員が休み時間の遊びを提案したり児童と一緒に体を動かしたりすることで、運動が楽しいと実感できるようにする。
- ・昨年度のスポーツテストの記録を高学年児童に渡すことで、運動に対する意識を高められるようにする。
- ・保健指導や栄養指導により基本的な生活習慣を身につけ児童の健康の保持増進を図る。

指標

- ・教員の実技研修を年に 1 回以上行う。
- ・年 2 回以上の食育指導を行う。
- ・毎月健康チェックを行う。
- ・令和 8 年度小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立古市小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○令和 8 年度小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 60%以上にする。 ○令和 8 年度の教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 6、教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 ・学習者用端末を使用する際の下支えとなる知識(安全・セキュリティ)や態度(倫理・法律・公共性)を育成する。 ・情報検索のみならず、情報の整理、分析、まとめ、共有、発表まで、一連の探求プロセスを効率化・高度化するツールとして学習者用端末を活用する。 ・家庭においても、積極的に学習者用端末を活用し、個別最適化された学習に取り組むことができるようにする。	
指標 ・情報モラルや情報リテラシーに関する ICT 教育を、年に 2 回以上行う。 ・3 年生以上は調べ学習や発表等、ICT を用いた学習を各学期に 2 単元以上取り入れる。 ・3 年生以上は、家庭においても、音読やナビマ、調べ学習などで学習者用端末を活用する。 ・令和 8 年度小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 60%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・児童が下校した後の時間を有効に活用し、時間外勤務時間や持ち帰り仕事を減らすために、ゆとりの日を毎月 1 回以上、会議や研修のない日を週 1 回以上設定する。 ・紙ではなくデジタル化することで学校と保護者間のやりとりが効率的に行うことができるようになるものは、デジタル化を推進していく。 ・今年度は音楽の専科も増えたことから、昨年度以上に専科制や教科担任制を活用し、効率的に準備をするなど、時間の使い方を工夫し、教員が児童と向き合うことのできる時間を捻出する。 ・会議や職員朝会では、伝達事項・連絡は PC 上で読み、質問や意見がある場合、担当者に伝え、全体で共有するようにする。また、全員が SKIP 掲示板や outlook、ミマモルメを毎日開いて確認するように徹底する。連絡のない日は職員朝会を行わず、朝の時間を児童と過ごすことができるようにする。	

指標

- ・ゆとりの日を第 1・2 水曜日に設定し、毎月 1 回以上設定する。
- ・NKD(No Kaigi&Kensyu Day)を毎週木曜日に設定し、会議や研修のない日を年間 35 日以上設定する。
- ・令和 8 年度の教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。
そのために、毎月の職員会議で自身の時間外勤務時間をチェックし、意識を高めていく。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点